

様式13

## 会派視察研修計画書

令和元年10月 2日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 小池友妃子



下記のとおり、視察（研修）を計画したので届け出ます。

参加議員	小池友妃子 ・ 鈴木みのり		
日時	令和元年11月14日（木）～令和元年11月15日（金）		
視察先	① 茨城県笠間市 ② 茨城県水戸市		
研修内容	① 高齢者見守り事業について ② 自転車利用環境整備計画について		
日程	① 11月14日 13時30分から14時30分 茨城県笠間市役所 高齢福祉課 高齢福祉G ② 11月15日 10時から11時30分 茨城県水戸市役所交通政策課		
交通手段	<input checked="" type="checkbox"/> 公共交通機関 (電車・新幹線)	<input type="checkbox"/> 公共交通機関 (飛行機)	<input type="checkbox"/> 自家用車

※該当するものにチェック☑してください

様式14

## 会派視察研修報告書

令和元年11月22日

碧南市議会議長 様

会派名 みらいクラブ

代表者名 小池 友妃子 印

下記のとおり、視察（研修）を実施したので報告します。

なお、参加者議員 2人 分の視察研修成果報告書を添付いたします。

参加議員	鈴木みのり・小池友妃子
日時	令和元年11月14日（木）～令和元年11月15日（金）
視察先	① 茨城県笠間市 ② 茨城県水戸市
研修内容	① 「高齢者見守り事業について」 ② 「自転車利用環境整備計画について」
視察先面会者 又は講師名等	① 笠間市：保健福祉部高齢福祉課 中庭課長、宮本主査、 小嶋主事 ② 水戸市：市長公室交通政策課 須藤課長、佐藤主事
備考	

※ 相手方から收受した資料の写しを添付してください。

## 視察研修成果報告書

令和 元年 11月 19日

議員氏名 鈴木 みのり 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

## 記

- 1 期 間 令和 元年 11月 14日（木）～令和 元年 11月 15日（金）
- 2 視察先 茨城県 笠原市・水戸市
- 3 視察の種類 会派視察
- 4 視察の成果等

今回の視察は、公明党とみらいクラブ合同の会派視察で、好天にも恵まれ、碧南市にとってすぐにでも採用したい、内容のある視察となりました。

まず初日は笠原市の「高齢者見守り事業」について研修をさせていただきました。特に笠原市では今までに、「愛の定期便事業」や「緊急通報システム事業」や「配食サービス事業」などを実施しており、あまり上手くいかずに、平成24度から、方向転換を始め、中でも、平成29年度から始められた“みまもりタグ事業”とその後の“GPS機器貸し出し事業”は一日でも早く当市でも実施したい事業であると感じました。みまもりタグ事業とは、国土交通省のスマートウェルネス住宅等推進モデル事業（平成28年～30年）に採択されたもので、民間の警備保障会社が開発した機器の無償提供を受けて、その効果等の検証を実施したもので、全国で10の自治体が行ったようです。残念ながら碧南市には情報が無かったようです。ただ、結果的には親機から20mの範囲の中でしか反応しなくて、かなりの感知器を設置しなくてはならず、危機の性能アップが望まれるようでした。碧南市としてはその後のGPS機器の貸し出しの方が魅力的かと思いました。スマホの位置情報を使った追跡アプリ的なもので、これは早速一般質問などで、提案する予定です。次の水戸市は東日本大震災で庁舎が被害に遭い、今年の春に新庁舎が完成し丁度外構を工事しておられました。また、来年の4月からは、全国で59番目の中核都市になる事が決定しており、活気を感じました。研修内容は



「自転車利用環境整備計画」についてであり、これは加藤議員の熱い思いからのもので、闊達な質疑になりました。特徴としては条例で実施せずに、環境整備計画によって実施している事でした。内容は「意識づくり」「道づくり」「しくみづくり」からなり、特に意識づくりでは高校生をモラルの見本にし、道づくりでは、ひたすら矢羽根を引く事に事業費を掛けて（55%補助）いるとの事で、早速効果も出ているようでした。私的には碧南市は環境整備の特区申請

をしてAIによる自動車の自動運転を試験的にやれば、効果が出るのではと感じました。

## 会派視察研修報告書

令和元年 11月 22日

議員氏名 小池 友妃子 印

視察（研修）に参加したので、下記のとおり成果を報告します。

### 記

- 1 期 間 令和元年 11月 14日（木）～令和元年 11月 15日（金）
- 2 視察先 茨城県笠間市、茨城県水戸市
- 3 視察の種類 会派（みらいクラブ）視察
- 4 視察の成果等

#### 1) 高齢者の見守り支援体制構築の取り組みについて（笠間市）

##### ① 「みまもりタグ」事業

笠間市では、総合警備保障(株)との協定による国の実証実験として、市内在住の認知症により徘徊のリスクがある高齢者等に、「みまもりタグ」や「みまもりタグ専用シューズ」の貸与を開始。併せて、徘徊時にタグの電波を受信し、高齢者の位置情報をサーバに自動送信する「みまもりタグ感知器」を民生委員宅、公共施設、協力事業所に230台設置調査開始。平成31年3月31日をもって実証実験は終了。

実際利用してみての評価点としては、小型、軽量で電池消耗も少なく、携帯性に優れていたり、タグと感知器がすれ違った時間と場所が記録されるため、所持者の移動経路を確認することができたり、利用者家族が安心できることがあげられた。

では、課題はというと、電波が微弱（有効距離20m）のため実用性を確保するためにはかなりの感知器が必要となることや広域的な対応ができないという事があった。

## ② 認知症高齢者支援事業（GPS事業）

認知症等により徘徊の恐れがある在宅の高齢者等を介護する家族に対し、位置情報端末機（GPS器機）を貸与し、行方不明時における位置情報の把握に活用するなど、早期発見・見守り体制を構築し、高齢者等の安全と家族の負担軽減を図っている。

### (1) 位置情報の確認

ご家族が位置情報対象者の現在位置をオペレーションセンターに電話で問い合わせと専用ホームページで検索方法確認。

### (2) 現場急行サービス

ご家族からの要請を受け、緊急対応員（ガードマン）が現場に向かい位置情報対象者を保護。ご家族の到着まで現場で保護もしくはご家族からの要請でタクシーの手配を行う。

## ③ その他の高齢者見守り事業

### (1) 徘徊高齢者等SOSネットワーク

高齢者等が行方不明になったときや、身元が判らない方が保護されたときに、警察だけでなく地域の方や事業所の皆さんにご協力をいただき、すみやかに行方不明者を発見または身元を確認する仕組み。

### (2) 在宅ケアチームの構築

地域コーディネーター3名を配置し、個別訪問による相談支援を行い、地域での見守りチームを構築。

### (3) 救急医療情報キット

一人暮らしの高齢者等を対象に家庭内の事故等により緊急通報した際に、既往症や服薬状況などが伝えられない時に備え、医療情報や緊急連絡先などを記入した救急情報用紙と、保険証・診察券・薬剤情報提供書の写しなどを入れたキットを設置することで、駆けつけた救急隊員が迅速に対応することができるようにしている。

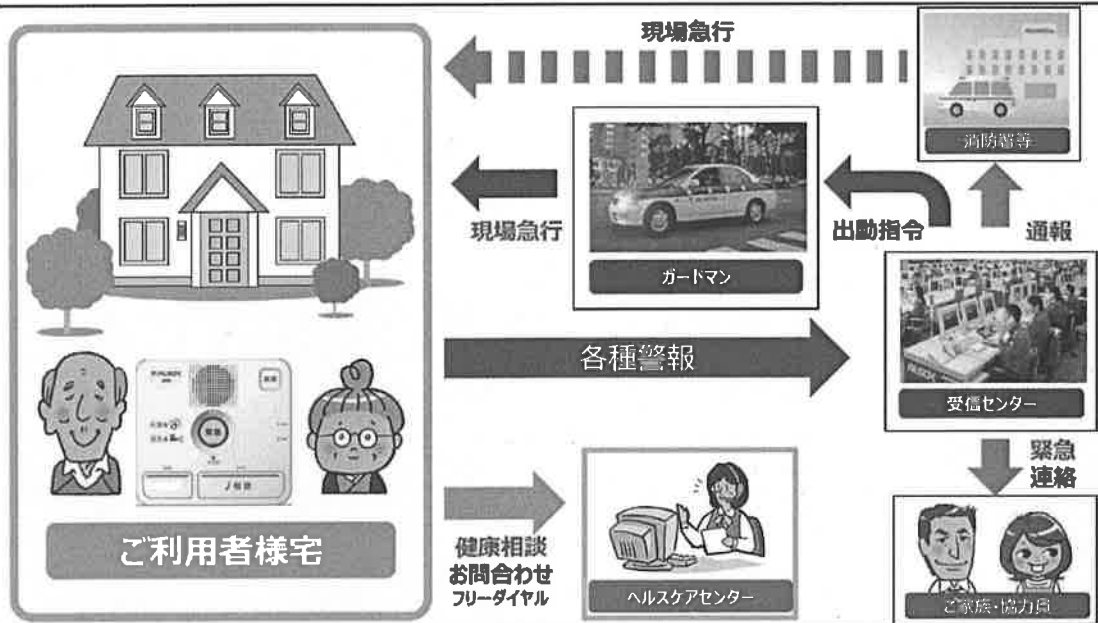
### (4) 介護健診ネットワーク

介護・医療・見守りなど、高齢者が住み慣れた地域でいつまでも元気に過ごすことができるようなまちづくりを支える仕組み。

### (5) 見守りあんしんシステム（緊急通報装置）

高齢者の方々が住み慣れた地域で安心・安全に暮らせるように、緊急時の備えとして通報装置（本体・ペンダント型）を貸与し、自宅での急病やけがによる緊急通報のほか、相談や安否確認コールのサービスにより高齢者をサポートする。

## 緊急時の対応について



### 【視察を終えて】

- ④ 碧南市でも同じだが、高齢化の進行に伴い、独居高齢者・高齢者世帯等が増えてくる。さらに認知症高齢者等も増えるためより一層の取り組みを強化していかなくてはならない。様々な方々と連携をし、碧南市でも急速な対応を構築する必要がある。認知症高齢者支援事業（GPS事業）は碧南市でも同じような取り組みもしているが、認知されておらず現在4人に貸与。



2) 自転車利用環境整備計画について（水戸市）

歩行者・自転車双方の安全性及び自転車によるまちなかや観光施設等の回遊性の向上を図り、安全で快適な自転車の利用環境の整備を推進するために策定されたもの。

① 自転車に乗ってみたいとなる「意識づくり」

自転車利用者、自動車運転者にも安全教育を実施するなどの安全への意識づくりや自転車利用の楽しさやメリットについての情報を発信するなどの自家用車に依存しない意識づくりへの取り組み。

② 自転車に乗ってみたいとなる「道づくり」

限られた道路空間を歩行者、自転車、自動車が分け合う道づくりと自転車通行空間を効率的に整備して連続性を確保するためにネットワーク化する路線を選定する取り組み。

③ 自転車に乗ってみたいとなる「しくみづくり」

レンタサイクルの拡充や駐輪環境の整備など、自転車を気軽に利用できるしくみづくりへの取り組み。

【視察を終えて】

国土交通省と警察庁では、身近な移動手段として重要な役割を担う自転車の安全で快適な利用環境を創出する取組を推進している。碧南市でも自家用車に依存するライフスタイルを見直し、人と環境にやさしい交通体系を確立することが今後必要となってくる。その一つとして自転車を利用しやすい環境整備を整えることも視野に入れていくことも調査研究を重ねながら考察していきたいと思う。

